

親から子へ ゆとりと資源循環型の酪農経営をめざして



網野 一雄 (あみの・いちお)
網野 喜久美 (あみの・きくみ)
長野県伊那市
《認定農業者》

推薦理由

- 1 自給飼料の生産を経営の柱とし、就農以来一貫して面積の拡大、生産量の増大に努めてきた。また、地域の仲間と飼料生産組合を設立し、計画的に、しかも低コスト生産に努め、また調製技術の研究、向上を図ることで、自給飼料コンクールでは当該経営を含めいずれも優劣付けがたいほど良質なとうもろこしサイレージの生産を行っており、常に上位の成績を収めており、他の地域の模範となる良質な粗飼料生産を実践している。
- 2 数年前まで、地域のさまざまな役職を引き受け、受胎の遅れ、乳房炎等疾病・事故により、経営成績をかなり落としていたが、次男が後継者として就農することを契機として、経営改善に積極的に取り組み、牛群検定の再開、家畜保健衛生所等の指導を積極的に受け、徹底した個体管理を行い、21年には乳量、乳質も元の成績を上回るほどに増加、改善し、県下でも上位の成績を上げられたことは、高く評価される。

(長野県審査委員会)

発表事例の内容

1 地域の概況

経営地である伊那市は、長野県の南部に位置し、南東側は南アルプスを境に山梨県、静岡県に接し、西側は中央アルプスを境に木曾地域に接しています。面積は667.81km²で、長野市、松本市に次いで県下3番目の面積で、その市域には南アルプス、中央アルプスの2つのアルプスがそびえています。2つのアルプスに抱かれた、中央部には、標高600mの伊那盆地が開け、天竜川と三峰（みぶ）川が南下して流れ、扇状地や河岸段丘が形成され、その上段からは広大なパノラマが展開しています。また東部に南アルプス国立公園、三峰川水系県立公園、西部に中央アルプス県立公園を有し、自然に恵まれた地域となっています。



気候は内陸性で、年間平均気温が12℃、年間日照時間も長く、冷涼で住みよい環境にあります。

市の交通は、中央をJR飯田線が走り、中央本線・東海道本線に連絡しています。道路では、木曾地域、中京地域を権兵衛トンネルで結ぶ国道361号線を始め、国道152号線、153号線が縦横に走り、東西・南北が結ばれ、交通の要所となっています。また西部には中央自動車道が南北に走り、首都圏および中京圏からもほぼ等距離にある位置的に恵まれた地域で、上伊那地域の政治、文化、教育、経済、交通の中心地として、2つのアルプスに抱かれた自然共生都市として発展してきました。

近年、電気・精密機械・食品などの製造業が発展し、商業は上伊那地域の中心として成長しています。

農業は、恵まれた広大な農地を利用した伊那米や野菜・花き・畜産の総合産地としての地位を築いています。

畜産については、酪農、肉用牛経営が盛んで有り、特に経営地のますみヶ丘は、県内有数の酪農地帯となっています。

2 経営・生産の内容

1) 労働力の構成（平成22年4月現在）

区分	経営主との続柄	年齢	農業従事日数（日）		部門または作業担当	備考
				うち畜産部門		
家族	本人	55	340	340	全般	
	妻	50	340	340	全般	
	次男	22	200	200	全般	H21年4月就農
	父	84	300	300	ほ育・育成	
常雇						
臨時雇	延べ人日		人			

2) 収入等の状況 (平成 21 年 1 月～12 月)

(単位: 円)

項 目		金 額	備 考
酪農収入	生乳販売	32,784,111	
	初生牛販売	773,000	
	育成牛販売	0	
	経産牛販売	360,000	
	奨励・補填金等	1,289,702	
	乾草・堆肥	450,000	
	共済金		
	その他		
計		35,656,813	
農外収入		0	

3) 土地所有と利用状況

区分		実面積(ha)		飼料生産利用延べ面積(ha)	
			うち借地面積		うち借地面積
耕地	水田				
	転作田				
	飼料畑	600	450	900	600
	未利用地				
	計	600	450	900	600
草地	個別利用地	700	650	700	650
	共同利用地				
	計	700	650	700	650
野草地					
山林原野					

4) 自給飼料の生産と利用状況 (平成 21 年)

使用区分	飼料の作付体系	面積(a)		所有区分	総収量(t)	主な利用形態等(採草の場合)
		実面積	延べ面積			
採草	イタリアンライグラス	300 a	300a	個人有	60 t	ロールサイレージ
	オーチャード混播	700 a	700a	個人有	420 t	ロールサイレージ
兼用						
飼料用 トウモロコシ	トウモロコシ	600a	600a	個人有	420t	サイレージ

5) 経営の実績・技術等の概要

(1) 経営実績（平成 21 年 1 月～12 月）

経営の概要	労働力員数 (畜産部門・2000時間換算)		家族・構成員	3.0 人
			雇用・従業員	0.0 人
	経産牛平均飼養頭数			34.9 頭
	飼料生産用地延べ面積			1,600 a
	年間総産乳量			325,079 kg
	年間総販売乳量			325,079 kg
	年間子牛販売頭数			22 頭
	年間育成牛等販売頭数			頭
収益性	酪農部門年間総所得			10,004,263 円
	経産牛1頭当たり年間所得			286,655 円
	所得率			29.1 %
	経産牛1頭当たり	部門収入		984,731 円
		うち牛乳販売収入		939,373 円
		売上原価		837,879 円
		うち購入飼料費		322,663 円
うち労働費		197,948 円		
うち減価償却費		158,799 円		
生産性	牛乳生産	経産牛1頭当たり年間産乳量		9,315 kg
		平均分娩間隔		12.5 カ月
		受胎に要した種付回数		2.0 回
		牛乳1kg当たり平均価格		100.9 円
		乳脂率		3.64 %
		無脂乳固形分率		8.67 %
		体細胞数		10.1 万個/ml
		細菌数		3.4 万個/ml
	粗飼料	経産牛1頭当たり飼料生産延べ面積		46 a
		借入地依存率		78.1 %
	乳飼比(育成・その他含む)			34.3 %
	生乳100kg当たり差引生産原価			8,508 円
	経産牛1頭当たり投下労働時間			172 時間
安全性	経産牛1頭当たり借入金残高(期末時)			729,259 円
	経産牛1頭当たり年間借入金償還負担額			65,927 円

(2) 技術等の概要

地帯区分	中山間	
飼養品種	ホルスタイン種	
後継者の確保状況	有	
飼養・搾乳	飼養方式	繋ぎ、対頭式
	搾乳方式	パイプラインミルクカー
	牛群検定事業	有
飼料	自家配合の実施	無
	TMRの実施	有
	通年サイレージ給与の実施	有
	食品副産物の利用	有
繁殖・育成	ETの活用生産の実施	有
	F ₁ 生産の実施	有
	カーフハッチの飼養	無
	採食を伴う放牧の実施	無
	経産牛の自家産割合	78%
販売	加工・販売部門の有無	無
	地産地消の取り組み	無
その他	肥育部門の実施	無
	協業・共同作業の実施	有
	施設・機器等共同利用	有
	共同堆肥センターの利用	無
	ヘルパーの活用	有
	コントラクターの活用	有 飼料生産組合を設立
	公共育成牧場の利用	有
生産部門以外の取り組み	無	

6) 主な施設・機械の保有状況

種類	名称
畜舎・施設	成牛舎、育成牛舎、パイプラインミルクカー1式、堆肥舎1棟、ばっ気装置1式、鉄骨倉庫1棟、タワーサイロ2基、地下式コンクリートサイロ2基
機械・器具	乗用トラクター5台、モアコンディショナー1台、ジェットシーダー1台、ロールベアラー1台、堆肥散布機1台、バキュームカー1台、スチームクリーナー1台、L型ブロック1式

7) 家畜排せつ物の処理・利用状況

(1) 処理の内容

処理方式	分離処理（一部混合処理）
処理方法	堆肥舎でローダーによる切り返し
敷料	もみ殻と細かいオガコ

(2) 利用の内容

内容	割合 (%)	用途・利用先等
販 売	10%	野菜栽培
交 換		
無償譲渡		
自家利用	90%	自給飼料畑還元

3 経営の歩み

1) 経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養頭数	飼料作付面積	経営・活動の内容
昭和45年	酪農専業	経産牛20頭 規模		規模拡大。20頭規模、対尻式牛舎新築。
〃 49年	酪農専業			経営主、就農。
〃 53年	酪農専業		110a	飼料畑 40 a 購入。
〃 55年	酪農専業	経産牛36頭 規模		規模拡大。36頭規模、対頭式牛舎新築。
〃 58年	酪農専業			結婚。
〃 61年	酪農専業			経営移譲を受ける。
〃 63年	酪農専業		300a	飼料畑 45 a 購入。仲間 6 人で「フォルト機械利用組合」設立。
平成11年	酪農専業		500 a	飼料畑 15 a 購入。
〃 18年	酪農専業		1,300a	飼料畑 30 a 購入。次男経営の手伝い開始。
〃 21年	酪農専業		1,600a	現在に至る。

2) 過去5年間の生産活動の推移

	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年
畜産部門労働力実員数 (人)	3	3	3	3
飼養頭数 (頭)	26.3	29.9	30.7	34.9
販売・出荷量等 (t)	225	226	236	325
畜産部門の総売上高 (円)	20,537,041	25,843,638	22,928,243	34,367,111
主産物の売上高 (円)	18,395,864	22,668,219	22,074,900	32,239,987

4 特色ある経営・生産活動の内容

1) 粗飼料生産を基軸とした酪農経営基盤の強化

昭和 53 年、就農から 5 年目が経過し、経営の意欲、目標が持てるようになり、粗飼料生産を基軸とした酪農経営が重要と考え、近隣の仲間 5 人とともに自給飼料生産機械利用組合を設立し、自給飼料生産の拡大と労働作業の効率化および設備投資の軽減、低コスト生産に取り組んできました。

昭和 63 年には、共同機械の借入金返済を終え、また仲間の 1 人が離農したことを契機にいったん組合を解散したが、自給飼料の安定的な生産・確保と低コスト化のためには共同生産が不可欠なことから、新たな自給飼料生産集団「フォルト機械利用組合」を仲間 6 人で設立した。新しい組合では自走式ハーベスターなど新しい機械体系、生産技術を取り入

れ、飼料畑の購入、借地面積の拡大を進めなど、現在まで継続して自給飼料の生産に力を入れていきます。

デントコーンサイレージの生産・調製については、タワーサイロ、地下式サイロに加え、場所を選ばず施工ができかつ低コストなL型コンクリートブロックを活用したバンカーサイロを導入するなど、良質なサイレージの生産を実施しています。

2) 良質たい肥の生産と効率的な利用

平成 17 年、自給飼料生産のためには、良質なたい肥の生産が必要であることから、畜産環境整備機構の 1 / 2 リース事業を活用して、ふん尿の搬入、攪拌の作業性の向上に配慮した堆肥舎を建設し、ローダーで十分切り返しを行い、自給飼料畑へ還元しています。また漏汁の流出を防ぐとともに有効活用を図るため、古い F R P 飼料タンクを活用した処理槽を設置し、液肥として畑に還元しています。

3) 牛群検定の実施と関係機関との連携体制による乳量の増加と乳質の向上

平成 18 年 4 月から次男が就農することとなり、また酪農関係を中心とする役職が少なくなり、これを契機に繁殖成績の向上を図るため牛群検定を再開し、県牛群検定分析センターおよび家畜保健衛生所に支援協力を依頼し、個体管理による繁殖成績の向上対策に取り組みました。

これらの取り組みにより、平成 18 年は、牛群の 40% がリニアスコア 4 以上と診断され、またほとんどの牛で受胎の遅れが出ている状況でしたが、平成 21 年には、リニアスコア 4 以上が 16.7% まで減少し、受胎遅れの牛も 5 分の 1 と大幅に減少することができました。

5 地域農業や地域社会との協調、貢献

1) 平成 21 年には、所属する伊那酪農業協同組合の理事（2 期目 4 年間）を引き受け、後継者の育成、乳質、乳量の向上等組合の発展に尽力しています。

2) フォルト機械利用組合の副組合長として、播種、刈り取り作業の調整など自給飼料生産の計画立案、生産性の向上に努めています。

3) 平成 20 年、21 年には農業経営者協会の郡部の会計を引き受け、酪農経営、地域農業の発展に努めています。

4) 平成 19 年には、上伊那農業高校の P T A 会長を務め、農業後継者の育成に尽力しました。

5) 農業以外では、長野県ソフトボール協会の理事（自身もキャッチャー選手と監督）として、スポーツを通じた子弟の教育に取り組んでいます。

6 今後の目指す方向性と課題

1) 施設の充実

私は父が60歳を迎えた年に経営移譲を受け、私もあと5年ほどで60歳を迎えるに当たり、60歳で経営移譲をしたことは大変良かったと思っています。次男が後継者として就農してくれたので、60歳の経営移譲を行いたいと考え、それまでに、乾乳牛舎の新築、育成舎の改築、堆肥舎の増築、作業庫の新設などやりがいの持てる酪農経営として、できる限り整備をしたいと考えています。

2) 環境保全施設等の整備

現在、厩肥は一部ふん尿混合で処理を実施していますが、副資材のオガコが品薄であることから、将来的にはすべて分離し、充実したふん尿処理施設の整備を行いたいと考えています。また太陽熱、風力を活用した発電施設の設置などを行い、できるだけ低コストで効率の良いたい肥作り、経営運営を実施したいと思いついて描いています。

3) ゆとりのある酪農経営の実践

飼養頭数については、仲間うちでも比較的少ない飼養規模ですが、自給飼料畑の購入、機械の購入など資産を着実に増やすことができたことを考えると、後継者にはあまり無理をせず、まずは現状の施設、資源を十分に使いこなすような経営技術、経営力を身につけ、家族でゆとりのある酪農経営を維持して欲しいと考えています。

【写真】



牛舎全景(タワーサイロも現役です)



牛舎内部(スチームクリーナーで清潔に努めています)



草地(平で区画されており作業が楽です)



ロールサイレージ(共同機械、共同作業で良質なサイレージができています)



もろこし刈り取り(機械利用組合で計画的な作付を行い、作業も能率的です)



L型ブロック利用サイロ(コンクリート床)(収量に応じて設置でき、しかも低コスト)



堆肥舎(作業性を重視して建設)



堆肥切り返し